

名大醫學部學友時報

2026 9

目次

1. 新院長に聞く	堀田 喜裕 (2)	5. 附属図書館友の会トークサロン「ふみよむゆふべ」	
	濱島 英司 (3)	「人生何周目 後藤新平 国家を治療する医者」 (10)	
	森 正一 (4)	6. 名古屋大学医学部室内合奏団 OBOG 会	 (11)
2. 退職教授からの書簡	大野 欽司 (5)	7. 前期学生生活報告	 (12)
3. 懐かしき日々	池末 裕明 (6)	8. クラブ活動報告	 (14)
	本田 直樹 (7)	9. 令和 8 年度 (2026 年度)	
4. 随筆	中村 和弘 (8)	名古屋大学医学部学友会支部総会のお知らせ	 (15)
		10. 第 117 回名古屋大学医学部学友大会のご案内	 (16)
		11. 編集後記	



岡山県蒜山ジャージーランド 時報部撮影

新院長
に
聞 く

中東遠総合医療センター

院長 堀田 喜裕



時報への寄稿は2度目になります。病院紹介の機会をいただきありがとうございます。私の専門は眼科で、2000年に名古屋大学から浜松医科大学（浜松医大）に移り、2024年に浜松医大を退任後、今野弘之先生、三宅養三先生、松山幸弘先生他のご高配により、中東遠総合医療センターに赴任しました。この度、松尾清一先生、渡邊裕司先生、宮地正彦先生他のご高配により4月から院長に就任しました。

—— 院長に就任された今のお気持ち

覚悟をして病院に赴任したので、今年の4月までの気持ちに大きな変化はありませんでしたが、4月からは責任の重大さをひしひしと感じる毎日を過ごしています。医療費高騰、医師確保をはじめとした難易度の高い問題に、宮地正彦企業長をサポートして完遂したいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

—— 病院の特徴

中東遠総合医療センターは、2013年4月に名倉英一企業長兼院長が赴任され、同5月に開院しました。掛川市と袋井市の全国初の市立病院の統合をはたし、学友会の方々と地域の皆様に支えられて成長してきました。いわゆる“ファーストペンギン”として誕生した経緯があります。病床は500床で、2025年における手術件数は6000件、救急車等搬送受入患者数は7000件を超えています。特に外科系の診療科が充実しており、静岡市や浜松市、愛知県の急性期病院と連携しています。

強みは職員の士気が高く、皆が目標に向かって一丸となれる点です。この2年間で多くのスタッフと話をし、面接もしました。職員からは「患者さんを救いたい。そのために自分に何ができるか」を真剣に考えている印象を受けます。地方の自治体病院のなかでは、独自に発展するポテンシャルが十分にある病院と考えています。

課題は、多くの地方病院と同様に医師不足です。医療従事者は比較的充足していますが、職種によってばらつきがある状況です。医師も、循環器内科や心臓血管外科、麻酔科などは充実している一方、糖尿病・内分泌内科の常勤医はいません。呼吸器内科の少なさも喫緊の課題でしたが、2027年度には改善する見込みです。また、救急医も充足していません。

—— 今後の展望や抱負

短期的には医師の確保です。医師にとって魅力のある病院を目指し、その姿を継続的に発信していくことが重要と考えています。外科手術や私の専門である遺伝子診

断などにおいて先進的な医療を行い、多くの救急患者を受け入れることで若手医師が力をつけられる環境を提供したいと考えています。

注力していく医師確保がうまくいけば、中期的には浜松医大での経験も生かして、病診連携・病病連携を推進したいと考えています。院長としての夢もあります。短期・中期での取り組みが順調にいけばですが、この地域で訪問看護の充実とACP（アドバンス・ケア・プランニング）の定着を図り、地域の人がより主体的に自身の最期を考える文化を醸成していきたいと考えています。人生100年時代と言われる今、自分の最期に向き合うことは大切でしょう。

—— 卒業研修への取り組み

当院は、「日本トップクラスの臨床研修病院」を目指しています。特に、救急車等搬送受入患者数が多く、救急医療では豊富な症例を経験できるので、実践的な臨床能力を早期から身につけることが可能です。

私は遠州地域で医師として26年間、医師会活動も約10年間になります。そうしたパイプも生かしながら、初期研修から専門研修を見据えた研修プログラムを構築して、静岡県内の医療機関とも連携しながら、一人ひとりの将来像に応じたキャリア形成を支援したいと考えています。

—— 学生へのメッセージ

当センターは東海道新幹線の掛川駅に近い好立地であり、静岡の名産であるお茶に、富士山が見える眺望も素敵です。私は過去にさまざまな場所で働いてきましたが、掛川市に移り住んでからこちらの環境がとても気に入っています。若い先生方には生活環境の良さも知っていたいただきたいので、是非一度見学に来てください。



病院外観

新院長
に
聞 く

国家公務員共済組合連合会 名城病院

はま じま えい じ
病院長 濱島 英司

—— 病院長に就任された今のお気持ち

4 月に名古屋大学消化器内科の医局人事で、32 年間勤務した刈谷豊田総合病院を辞し、国家公務員共済組合連合会 (KKR) 名城病院の病院長に就任致しました。

名城病院 病院長職は、名古屋大学旧第二内科出身の重鎮の先生方が務められてきた要職です。今までは、どちらかという臨床の現場監督として仕事をしてきましたので、歴史ある名城病院の経営・運営の責任者として勤務することとなり、非常に身の引き締まる思いで一杯です。

今までは主に自科の最善の診療を目指して何をすべきか考えてきましたが、今では思考回路が変わり名城病院のあるべき姿について必死に考える様になりました。

近江商人の経営理念の言葉として「三方よし」という言葉があります。買い手よし・売り手よし・世間よしという意味です。病院も近江商人同様に「三方よし」を目標とすべきであり、患者よし・職員よし・地域 (医療) よし、すなわち、病院の診療 / サービスの質向上・職員が働きやすく働きがいのある職場づくり・地域医療への貢献が実現される様に、病院長として精一杯やってゆきたいと考えています。

—— 病院の特徴

名城病院は、1951 年に開設された名古屋共済診療所を前身とし、1962 年に KKR の直営病院として名古屋市中区の名古屋城三の丸に開設され、病院の老朽化に伴い 2000 年に現在の地上 12 階、地下 2 階の新しい病院が竣工されました。

当院は、現在、病床数 316 床 (一般 269 床、地域包括ケア 47 床) の中規模病院で、地域医療支援病院・二次救急医療機関・臨床研修指定病院などの指定を受けています。18 科の診療科に加え、脊椎脊髄センター・循環器センター・内視鏡センター・肝臓病センターによる高度な医療の提供も行い、年間約 4000 件の救急搬送患者を受け入れ、名古屋市中区を中心とする地域医療に貢献しています。

—— 今後の展望や抱負

現在、医療を取り巻く状況は厳しく、コロナ禍後からの受診者減少、厳しい診療報酬、物価・人件費の高騰、医師不足などが病院経営・運営における大きな問題となっています。

当院は官庁街の中にある中規模病院で、周辺にはいくつかの大規模病院があり、大病院との病病連携を含め、地域医療構想に基づく地域医療のニーズにマッチした喫緊の改善・改革が当院に求められています。

「三方よし」を念頭に、名城病院が今以上に地域の皆さんに「親しまれ、信頼され、選ばれる病院」となることを目指してゆきたいと考えています。

—— 卒業研修への取り組み

当院は 1962 年の創立から約 60 年の歴史の中で、都心でありながら地域に寄り添った診療を行ってきました。

当院の研修システムは医師臨床研修指導ガイドラインに

則したローテート研修を基本とし、各科の指導医とマンツーマン体制で細部にまで目が届く体制をとっています。1 年次の早い段階から、指導医とともに患者に接し、診察から検査・診断・治療と積極的に関わっていきます。2 年次になると、院内研修以外に院外施設での地域医療や産科・精神科・三次救急医療研修に加えて、選択研修も多く設けて研修医の先生自身が希望する科で研修を行えるようになっていきます。

決して後悔させませんので、名古屋中心部の好立地で有意義な研修に取り組む意思のある皆さんを大募集しています。

—— 学生へのメッセージ

NHK 大河ドラマ『晴天を衝け』で主人公の渋沢栄一 (現 1 万円札の肖像) に興味を持ち、数年前にその生家 (埼玉県深谷市) を訪れました。そこで、渋沢栄一の甥 (妹の長男) が名古屋帝国大学初代総長を務めた渋沢元治 (電気工学) であることを初めて知り、更に親近感を覚えました。

名古屋大学と少なからず関係のある渋沢栄一の名言に、「夢七訓」があります。「夢なくして理想なし、理想なくして信念なし、信念なくして計画なし、計画なくして実行なし、実行なくして成果なし、成果なくして幸福なし、ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず」この言葉は、まず夢を持つことが、人生の出発点であることを示しています。

医学生皆さんの、大いなる夢を持ち大いに医療の世界で活躍され、御自身の幸福を掴まれることを祈念しております (もちろん、色んな幸福があります)。



新院長
に
聞 く

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

院長 **もり しょういち**
森 正一

—— 病院長に就任にあたっての今の気持ち

当院に赴任して19年目を迎え、このたび病院長を拝命いたしました。専門は呼吸器外科で、これまで診療に仕事へのエネルギーのほとんどを注いできました。医師になった当初、「専門バカにはならない」と強く心に誓っていましたが、振り返ってみれば、いつの間にか呼吸器外科の臨床に偏った「専門バカ」になっていたのかもしれない。そのような私が、内科系をはじめ各分野の優れた医師が集う当院の舵取りを担うこととなり、正直なところ不安と重責を感じています。

しかし、前院長をはじめ歴代の院長、そして多くの先輩方から背中を押していただきました。これまで築き上げられてきた当院の伝統と医療体制を大切にしながら、私自身が目指してきた医療への思いを融合させ、さらに発展させていきたいと決意しています。

—— 病院の特徴

「中村日赤」の愛称で地域の皆様に親しまれてきた当院は、本年で89周年を迎えます。2021年には八事日赤病院との統合により、現在の日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院となりました。日本赤十字社の9つの事業のうち、当院は医療事業と国内災害救護を担っています。

名古屋駅以西から海部東部を主な診療圏とし、818床、34診療科、医師335名、看護師1,053名を含む多くの職員が働く大規模急性期病院です。名古屋大学を中心とする強力な支援のもと、血液内科、消化器内科をはじめとする内科系診療科、産婦人科、小児・新生児科、病理部、麻酔科、呼吸器外科、泌尿器科など、多くの領域で質・量ともに高い診療体制を有しています。また、学術的な指導力を備えた指導医が多数在籍していることも当院の大きな強みです。

救急からの動線と一般外来からの動線を分け、ICU・HCUなどの重症病床と一般病床についても適切な機能分化を図っています。夜間・休日の診療体制も整備し、24時間365日、質の高い医療を提供できる体制を整えています。また、災害救護においても、日本赤十字社の使命を深く理解した職員が、訓練だけでなく実動部隊として積極的に活動しています。

—— 今後の展望と抱負

これまで、名古屋大学からの支援と、歴代の先輩方、そして現職員の努力によって当院の医療機能は高い水準に保たれてきました。一方、近年の医療を取り巻く環境は大きく変化し、多くの急性期病院と同様、当院も厳しい経営状況に直面しています。

今後は、当院の特徴と強みを失うことなく、急性期医療の拠点として持続可能な病院を目指します。医療機能

のさらなる向上に加え、職員一人ひとりの意識改革と業務効率化を進め、経営改善を図ります。同時に、職員が誇りを持ち、安心して働き続けられる環境づくりにも力を注ぎます。また、気候変動や地震など、自然災害への備えはますます重要になっています。赤十字病院としての使命を果たすため、国内災害救護にもこれまで以上に積極的に取り組みます。さらに、日本赤十字社愛知医療センターとして、第二病院との機能統合も着実に進めてまいります。

—— 卒後研修への取り組みと学生へのメッセージ

初期研修から専攻医の時期に、救急疾患への対応力を身につけることは非常に重要です。当院では年間8,000台を超える救急車を受け入れており、現在、救急診療体制のさらなる改善に向けてチームで取り組んでいます。本年9月には新たな救急部長を迎える予定であり、救急医療の一層の充実を期待しています。また、全国的に不足が懸念されている消化器外科医の育成にも力を入れるため、本年より新たに外科専門研修コースを創設しました。

医療は、驚くべき速さで進化していきます。専門医として診療能力を高めるだけでなく、学術的な力を身につけ、やがては後輩を育てる役割も担わなければなりません。だからこそ、少なくとも卒後10年程度までは、目の前にあることをすべて「学ぶチャンス」と捉え、診療にも学術活動にも貪欲に取り組んでほしいと思います。

そして、自分の専門とは一見関係のない仕事や役割を依頼されたときにも、ぜひ挑戦してください。一見遠回りに思える経験が、医師として、また一人の社会人としての幅を広げ、いつか必ず自分の力になります。

当院には、各診療科に高い診療力と教育力を備えた指導医が数多くいます。多くの可能性を秘めた若い皆さんが当院を研修先として選び、ここでの経験を将来のキャリアにつなげてくれることを心から願っています。私自身も皆さんとともに学び、より良い病院をつくっていきたいと考えています。





「基礎医学研究者」「ICT技術者」「海外長期在住者」 「脳神経内科医」の経歴に新たに「教育者」の経歴が 加わりました

名古屋学芸大学 副学長

おおの きんじ
大野 欽司 (58 年卒)

2024 年 3 月まで 20 年間医学系研究科神経遺伝情報学教授として勤務させていただき、定年退職後に杉浦康夫名古屋大学名誉教授が学長をされている名古屋学芸大学に移り早くも 2 年間が経過しました。1 年前に呼吸器内科学の長谷川好則名誉教授、今年からウイルス学の木村宏名誉教授にも来ていただきました。

神経遺伝情報学教室は特定の基礎科目を担当することなく実習も担当しない教室のために私の学部生講義は多い時でも年間 8 回でした。大学本部や医学系研究科のいろいろなハウスキーピングジョブをさせていただいたために研究にはエフォートの半分も費やすことができなかったのですが、多くの講義や実習を担当されている基礎教室に比べると研究に比重を置くことができる環境であったと思います。このような私が名古屋学芸大学に移り今年度は 15 回で構成する講義・演習を年間合計 8 コース担当しております。名古屋大学では学部生や大学院生の研究指導を人並みに行ってきたと思うのですがコース授業を行うのは生まれて初めてです。近しい人に「まさか大学で教育が行われているとは思わなかった」と言って呆れられています。名古屋大学の中でも医学系研究科は学生数に対して教員数が多く教員が教育に割く時間は多くありません。名古屋大学の保健学科など他の研究科の教員から教育負担の話を伺っていましたが、名古屋学芸大学に移って初めて私は教育に時間を割く生活を理解できました。

私は卒業後に脳神経内科医を選びましたが、学友会の多く方と異なる 3 つの道を歩んできたように思います。初めに医学部情報工学科卒と言われるような ICT オタクです。若い頃は変人扱いされたのですが ICT・AI 全盛期になり冷たい視線を感じなくなりました。しかし、私が鈍感になっただけかも知れません。現在、Excel や JMP を使った推計統計学教育を担当しており私が好きな分野として楽しんでいます。さらに Python に

よる AI 開発教育も担当しております。名古屋大学在籍中に教室員とともにデータサイエンス解析や AI モデル開発を行ってきましたが自らコードを書くことは滅多にありませんでした。2021 年度から医療 AI 人材育成プログラム AI-MAILs の代表として情報系の先生を含めていろいろな先生方に AI 教育をお願いし私も門前の小僧として AI の勉強をさせていただいたことが今役立っています。第 2 が米国メイヨークリニックで 12 年間近く過ごしたことです。アメリカで長く暮らし全失語の治癒が困難であることを自ら体験したのですが、英語は会話も読み書きもあまり不自由しなくなりました。今の大学では英語を教える機会はないのですが世界各国の文化の違いや日本文化の異質性を楽しんで教えております。第 3 は名古屋大学在籍中の本職で基礎医学研究です。基礎研究者として名古屋学芸大学の大学院生への助言を時に依頼されますがあまり的確な助言をできていないようです。新しく加わった第 4 の道が最初に述べました教育です。「目新しいことをやっていれば楽しい」というのが研究者の特性のようで私には未知の領域として楽しんでおります。私は退職後の 2 年間に 19 報の論文を責任著者・最終著者として執筆してきました。しかし、名古屋大学で残した研究ネタもそろそろ尽きてきました。今後データサイエンス・AI 領域でどの程度の研究をできるかわかりませんが、今年度からは教育・研究・IR 担当副学長として杉浦学長を補佐する仕事も増えてきました。加えて、名古屋学芸大学は情報系の先生方がいらっしゃると思いますので私のような ICT オタクでも業務の DX 化や IR 解析でお役に立つことができています。私は間違えて医学部に入ってしまったことを契機に興味が続くまま雑多なことに手を出し続けてきました。「教育」が私の最後の放浪になるか不明ですが、学友会の皆様の引き続きの温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

第117回 名古屋大学医学部 学友大会のご案内

仲秋の候、皆様にはお変わりなくご活躍のことと存じ、心よりお慶び申し上げます。

おかげさまで、多数の皆様からご参加のお申し込みをいただき、また広告掲載につきましても多大なるご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

皆様の温かいご支援とご協力のおかげをもちまして本会を開催できますことを、大会委員長としてこの上ない喜びを感じております。

本大会が実り多い学術交流の場となりますよう、準備を進めております。

皆様にお目にかかれまことを心より楽しみにしております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

2026 年 9 月

第 117 回名古屋大学医学部学友大会 委員長 佐藤 公治

(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 院長／名古屋大学整形外科同門会 会長)

日 時

2026 年 10 月 10 日 (土) 14 時 15 分～

場 所

名古屋観光ホテル 2 階 曙の間、3 階那古の間
〒460-8608 名古屋市中区錦一丁目 19 番 30 号
TEL 052-231-7711

参加費

一般会員	16,000 円
医員 (研修医を含む)、大学院生	8,000 円
会員のご同伴者	8,000 円
非会員	17,000 円

行 事

1. 総 会
2. 記念講演

講師 福岡 伸一 先生

<https://www.fukuokashinichi.com>

京都大学卒および同大学院博士課程修了。ハーバード大学研修員、京都大学助教授などを経て、現在、青山学院大学教授・米国ロックフェラー大学客員教授。生物学者・作家。

演題：いのちの動的平衡 (仮題)

3. 懇親会

- ・「ジャズバンド演奏」 WHY ジャズ楽団
- ・「名古屋大学応援団演舞」 名古屋大学応援団



編集後記

朝夕の風に秋の気配を感じる頃となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

8 月には西医体が富山にて開催され、各部が日頃の練習の成果を存分に発揮した夏となりました。一方、4 年生の夏休みは 8 月末までで、西医体が終われば夏もあっという間に過ぎ去り、気づけば OSCE・CBT がすぐ目の前です。まだ夏を満喫している下級生の姿を少し羨ましく眺めながらも、気持ちを切り替え、本格的に勉強に向き合う毎日を過ごしています。今まで積み重ねてきたはずの知識が思いのほかこぼれ落ちていることに我ながら情けなく思いつつ、一つひとつ学び直しているところです。実りの秋を迎えられるよう、気を引き締めて勉強に励みたいと思います。季節の変わり目ですので、皆さまもどうぞご自愛ください。

(村松 舞奈美)

部 長	梶山 広明	6 年	小野 瑞稀	阪口 竜佑	松井のぞみ	森本 崇嗣
委 員	芳川 修久	5 年	安藤 優里	坂本 鈴奈	チーフ 相地 竜壺	味村 柊哉
	玉内 学志	4 年	天野 祥汰	佐野 文哉	橋元万由子	村松舞奈美
学友会事務局	中島 千夏	3 年	櫻井あんり	高木 彰吾	原田理紗子	平田 紗菜

【時報部の e-mail アドレスのお知らせ】

本時報に対するご意見、ご感想、情報等は、numed.jiho@gmail.com へお寄せください。

発 行 所 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65
名大医学部学友会
編集発行人 時報部長 梶山 広明
印 刷 所 名古屋市中区千代田 5-11-16
株式会社山誠社

購読料 (年 7,000 円 会費に含む) 毎月 22 日発行
学友会 振替口座 (00880-7-3838)
電 話 (052) 744-2512 (直通)
F A X (052) 741-7676
メー ル gakuyuukai@med.nagoya-u.ac.jp